



# 五回目 新歓 キャンプ 新歓祭行事

## 元祖たにしおどり



深く、きれいでしょ...ハ、ハイも

四月二日から四日まで新歓キャンプが行なわれた。日程は例年通りだが、新企画も盛り込まれた。

今回で五回目を迎える新歓キャンプも、年々充実してきている。その日の不安や緊張もほぐれて遅くまで話をしていられる人もいたようだ。

二日目の午前中のリクリエーションでは校歌、応援歌はもちろん、高田教授より伝授された「元祖たにし踊り」を練習した。ここまで新入生は東薬の一面を見ることが出来たようだ。

一日目は、翌日のパネルディスカッションのスカッションのための資料をもとにした説明を、各教授の持ち味を生かして、

先生のおもしろい話やためになる話、また上級生の体験談なども聞けて、新入生は参考になったようだ。だが時間が長いと感じていた人もいた。

二日目の晩は、班ごとにもちろん、二班合同でゲームを楽しんだところもあった。また、和気合い合いと話がはずみ、朝まで起きていた班もあるようだ。

二泊三日のキャンプを終えて新入生は、入学前の不安を取り除くことができ、友達も輪も広がり、充実した時を過ごせたようだ。

新歓祭実行委員長に感想を聞いてみると「キャンプ前の準備の遅れや、上級生同志の連絡の悪さを反省している。しかし、新歓キャンプの目的は果たすことが出来たと思う」と語った。

### みんなで広げる友達の輪

#### 生協助新入生のつどい

去る四月六日、生活協同組合主催による新入生のつどいが行なわれた。このつどいは、昨年からはなわかれており、百人以上の新入生が参加し、昨年を上回る百三十二名の参加があった。

オリターとしての上級生も四十一人あり、なかなかのにぎわいであった。つどいの目的は新入生同志が互いに知り合い、ゲームなどを通じて親睦を深めようという点と、それにより幾らかでも不安を取り除くことにあった。つまり、友達の輪！

#### 学術研究発表会

4月23日PM2:00から二講義室において学術部門主催の学術研究発表会が開かれた。これは各学術系クラブの日頃の成果をより多くの人に知ってもらおうことを目的とし、同時に新入生への学術クラブへのインテロダクションとも言えるだろう。また、今回の発表には模造紙を避けOHP等を利用するのだという。なお各発表内容は次の通りである。

漢研「漢方薬の作り方など」  
製剤「錠剤、軟膏、化粧品」  
生研「妊娠期の代謝など」  
衛研「インスタンみそしる」  
化研「Ginseng 反応」  
分析「多摩川の水質調査」  
微研「多摩川の大腸菌群検査」  
植研「南アルプスの高山植物」

#### 歩け歩け大会

昨年に続いて2回目の企画となる文化部門主催、歩け歩け大会が5月8日(日)昨年同様府中一東薬のコースで行なわれる。この企画は昨年なかなかの好評で、ただ距離が長いという不満もあったのだがどうやらコースの変更はなかったようだ。集合場所は府中大同魂神社AM10:00でテクテクと東薬へと向う。道中の環境は最高だし、楽しいレクリエーションもある。弁当付で新入生の参加費は百円、上級生はまだ未定とか。文化部門では新歓の一環として互いの親睦を深めると共にクラブの決まっていた新しい新入生の為の良機会にしたいと述べている。なお雨天の場合は集合場所等は変わらぬが多摩動物公園に電車で行くとか...

#### マラソン大会

例年通り体育部門主催のマラソン大会が5月、日に行なわれる。コースは男子が女子よりやや長めの「グラウンド」ゆ木と多摩テックバス坂、研修センター、南陽台、東薬で、女子はバス坂から研修センターを通らないで東薬へゴールインとなっている。去年までと違う点は、例年各クラブの参加だったのに対し、今年はクラス参加を主体にして更に大きなイベントにしようというところにある。うららかな春の一日、日頃なまっていた体を存在に動かして爽やかな汗をかこう。また景色でも見ながら歩き通すのもいい。とにかく誰でも気軽に参加できるイベントなので主催者側は多くの参加を呼びかけている。但し健康診断をお忘れなく。

#### 伝言板

ハルモニア  
四月二十九日金に府中市民会館において、スプリングコンサートが行なわれます。開場一時半、開演二時。詳しくは、ハルモニアまで、

合唱団  
四月二十四日(日)新宿区立新宿文化センターにおいて、三大学ジョイント、コンサートが行なわれます。(東北大学、北里大学、東京薬科大学) 開場一時半、開演二時。詳しくは、合唱団まで。

旅研  
四月二十四日(日)都内オリエンタリング大会を開く予定です。新宿、渋谷、原宿を中心にした、ユニークなチェックポイントをまわります。詳しくは四月二十三日までに旅研部室へおいで下さい。

#### 薬味

東薬の自然も春の陽をいっぱいにあびてすがすがしい。自然と身近に接することが出来る点では都内の他の大学にひけをとらないのではないだろうか。東薬の中をぐるっとひとまわりして見ると予想以上の動植物を目にする事ができる。東薬はコナラやヌギなどの雑木林を主体にサクラ、ツツジウメ、モクセイ、など何十種類もの植物を配したキャンパスである。この緑に囲まれたキャンパスの中を散策すると思ってもよらない自然にお目にかかれる。例えば部屋裏への階段付近では、かぶと虫の幼虫がいるし、植物園には一本の株に紅白、二種の花を咲かせる珍らしいサクラがある。又、東薬にはウグイスキジ、ヒバリなどの数多くの野鳥も生息している。

いなか立地していることにより、不便なことも多いがこれだけの自然の中で四年間大学生活を送れることは素晴らしいことではないか。近年薬学士の活動領域はますます拡大しつつある。環境汚染にストップをかけることも我々の大きな仕事の一つではなからうか。そのような意味において自然を見つめていかなくてはならない。

#### 編集後記

今年度第一号の新聞です。新入生も入り新聞会も新たなスタートをきりました。今年度は種々の企画を催したいと思っております。ヨロシク!

一面の東薬祭運営委員会の記事の誤字、脱字を訂正いたします。